

令和2年度

公立大学法人福島県立医科大学の業務実績に関する評価結果

令和3年9月

福島県公立大学法人評価委員会

# 公立大学法人福島県立医科大学の令和2年度業務の実績に関する評価結果（年度評価）

## 第1 「全体評価」

公立大学法人福島県立医科大学（以下「法人」という。）においては、平成18年度の法人化以降、法人化のメリットを生かした以下の特色ある運営がなされている。

- 理事長のリーダーシップによる迅速な意思決定に基づく、組織、人事、予算などの面での自由度を生かした自主的・自律的な運営
- 学外者や専門家の幅広い見地と地域社会のニーズ等を踏まえた運営

第三期中期目標期間の三年度目となる令和2年度の業務実績について、法人による自己評価は次のとおりである。

全項目（221項目）中

- |                        |              |
|------------------------|--------------|
| 「A：年度計画を上回って実施している」    | 8項目（3.6%）    |
| 「B：年度計画を予定どおりに実施している」  | 204項目（92.3%） |
| 「C：年度計画を下回って実施している」    | 8項目（3.6%）    |
| 「D：年度計画を大幅に下回って実施している」 | 1項目（0.5%）    |

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故、更には新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中で、理事長のリーダーシップの下、役員会、経営審議会、教育研究審議会等の内部機関や教職員が相互に緊密な連携を図りながら、法人を挙げて中期目標の達成に向けて、人材育成や研究、保健・医療の提供、地域貢献に積極的に取り組み、県民の保健・医療・福祉の向上に貢献していることは、高く評価できる。

また、東日本大震災等からの復興を進めるため、県民健康調査を始めとする県民の心と体の健康を守るための各種事業に積極的に取り組んだことや新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、福島県の中核医療機関として尽力されていることは、法人の社会的評価を大いに高めている。

財務状況に関しては、診療単価の増や費用の削減など、収益向上の取組を積極的に行ったことや、新型コロナウイルス感染症患者受け入れに伴う収益減の見合い分の補助金が措置されたことにより、2期連続で当期総利益を計上し、繰越欠損金を解消する決算となった。

こうした取組を大いに評価するとともに、引き続き、安定的な運営の確保、経営効率化に取り組まれるよう期待する。

### 1 福島県立医科大学

福島県立医科大学では、豊かな人間性や倫理観、コミュニケーション能力を備えた地域医療に貢献する医療人の育成、学生への各種支援、県内医療確保のための医療機関への医師派遣や専門知識を活用した医療教育活動等の地域医療施策、海外大学との相互交流や海外研究支援による国際交流の深化、独創的で質の高い研究を推進するための環境整備に取り組んでおり、それらのことについて評価できる。

### 2 大学附属病院

特定機能病院である大学附属病院（以下「附属病院」という。）では、全人的・統合的な医療の提供などのため、法人化を機に医学部附属病院から大学附属病院

となり、既に病院機能評価の認定や都道府県がん診療連携拠点病院の指定を受け、救命救急センター及びドクターヘリの運営、臨床腫瘍センターの運営、性差医療センターの運営、リハビリテーションセンターの運営、一般病棟における7対1看護の実施、臨床研修の充実、医療の高度化や質の高い医療の提供を支える人材育成、双葉地域の医療体制への支援など、高度・先進医療、患者の安全管理と患者サービスの向上、地域医療との連携等に取り組むとともに、病院長を中心としたガバナンス体制の下で医療安全の確保に取り組んでおり、それらのことについて評価できる。

また、新病棟（みらい棟）において、救急医療、災害・被ばく医療、子ども・女性の医療の充実を図るとともに、東北地方では初の導入となった先端的なハイブリッド手術室やMRI手術室において最新医療を提供し、本県の医療水準の向上に努めていることも評価できる。

### 3 会津医療センター

大学の附属施設として教育研究の一端を担うため、大学と連携した医学部及び看護学部の学生の臨床実習を行うなど、人間性豊かな優れた医療人の育成に努めたことについて評価できる。また、高度で先進的な医療を推進し、地域医療拠点として会津地域の医療向上に資するため、病院機能評価の認定、病院機能の充実、地域の医療機関との連携強化、地域医療支援などの取組を行っていることについても評価できる。

さらには、病院長を中心に医業収益の確保に努めていることも評価できる。

### 4 東日本大震災等の復興支援

本県復興を担う高度な知識や技術等を備えた医療人を育成するための教育プログラムの実施、県民健康調査や市町村等との連携による被災者の心のケアの推進、医療関連産業の復興関連プロジェクト支援に向けた研究の推進、放射線医学の教育研究の推進などについて評価できる。また、本県医療分野における復興拠点となる「ふくしま国際医療科学センター」において、復興を医療面と健康面から支える取組を進めていることも評価できる。

## 第2 「項目別評価」

注) 年度計画の目標・・・「計画目標」と表記する。

### 1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

#### (1) 教育に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 中期目標で掲げた国家試験の合格率について、医師国家試験はわずかに及ばなかったが、保健師国家試験は前年度に引き続き、数値目標を達成した。看護師国家試験では1名が不合格となったが、全国平均

を上回った。

医師国家試験(新卒) 実績 93.5%(目標値 95%以上 全国平均 94.4%)

保健師国家試験 実績 98.8%(目標値 95%以上 全国平均 97.4%)

看護師国家試験 実績 98.8%(目標値 100% 全国平均 95.4%)

- ② ○ 入学後の成績や卒業後の進路等についての検証結果を踏まえ、医学部では、令和5年度からの推薦A枠出願資格を卒業後、県内医療機関等で3年以上、医学・医療に従事することに変更した。看護学部においては、令和4年度の社会人選抜廃止後の募集人員について決定し、予告公表を行った。
- ③ ○ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、オープンキャンパスや進学説明会などの実施が制限されたが、オンラインを利用し新たにWebオープンキャンパスサイトを立ち上げ、大学及び学部の紹介や入試情報を積極的に周知した。
- ④ ○ 医学部において、国家試験を見据え、4、5年生の進級試験出題範囲の検討や設問のブラッシュアップなどの見直しを行い、受験対策支援に取り組んだ。また、看護学部では新カリキュラムによる保健師選択制において、成績、面談などから履修者を選定し、教育の質の向上を図った。
- ⑤ △ 医学部において、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生への個別指導など学習支援にかかる時間が不足したことから、CBT(臨床実習開始前の学生に必要とされる知識を問う客観試験)の合格率は97.6%(目標値:98.0%以上)、OSCE(臨床実習開始前の学生に必要とされる技能と態度を客観的に評価する実技試験)は、教員の増員やスキル・ラボラトリーを開放し自己学習促進の取組を行ったが、合格率は89.5%(目標値:90.0%以上)と、中期計画の目標には届かなかった。
- ⑥ ○ 医学研究科では、新型コロナウイルス感染拡大の影響により渡航ができなかったが、1名の共同大学院生を選定し、国立メーチニコフ名称北西医科大学の「生物統計学」をオンラインで受講し単位互換するなど、国際性及び先進的で高い専門性のある人材育成を図った。
- ⑦ ○ 看護学研究科では、新たに「看護研究方法論」を開講し、修士課程の教育・研究機能強化を図るとともに、研究進捗状況を共有化し、より効率的な指導を行った。
- ⑧ ○ 会津医療センターにおいて、院内感染の発生により院内実習が実施できなかったが、代替としてZoomを用いた遠隔実習を行った。また、改善要望を含む学生アンケート結果を関係各科等へフィードバックするなど、学生教育の質の向上に取り組んだ。
- ⑨ ○ 中期目標で掲げた看護学部就職希望者の就職率(目標値:100%)について、就職情報コーナーでは、学生への各医療機関からの求人情報等の随時提供、附属病院情報の重点的な周知などを行い、看護学部卒業生の就職率は100%を維持している。
- ⑩ ○ 文部科学省から保健科学部設置認可を受け、入学者選抜の実施、福島駅前キャンパス竣工後の速やかな教育実習機器搬入等、専門医療技術者の育成に向け教育環境整備に取り組んだ。

(2) 研究に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 「戦略的学内研究推進事業」において、基礎系、臨床系の講座等間の連携による研究を支援する「一般分野」1件を採択し、研究支援を行った。
- ② ○ 学内研究者に対し競争的資金の公募情報を速やかに周知し、事務局での申請書事前チェックや効果的な資料作成支援などを行った結果、助成事業の採択件数は概ね中期計画の目標を達成した。  
文部科学省科学研究費助成事業 件数 358件  
(目標値:年間 280件以上)  
厚生労働省科学研究費補助金 件数 23件  
(目標値:年間 20件以上)  
AMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)事業  
件数 38件  
(目標値:年間 50件以上)
- ③ ◎ 研究の国際化を推進するため、英文校正に精通した非常勤職員の雇用や民間会社への英文校正委託など質の高い英語論文の作成支援環境の充実に取り組んだ結果、英語論文数は1,064編(目標値:年間555編以上)となり中期計画の目標を大きく上回った。
- ④ ○ 実験動物研究施設の増築及び改修事業を研究者への影響が最小限となるよう関係者間の連携を図りながら工事を進め、予定通り竣工した。工事完了後は、運用基準を整備し、研究者の研究環境の向上を図った。
- ⑤ ○ バイオジャパン2020やメディカルクリエーションふくしま2020などで企業向けプレゼンテーション等を行い、共同研究実施に向け、積極的に産業界へ働きかけを行った。

(3) 地域貢献に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、県民向けの公開講座が開催できなかったが、地元新聞社と連携し、紙上でセミナー等開催や動画サイトでの講演配信など、健康啓発についての情報発信に取り組んだ。
- ② ○ 福島県健康づくり推進課と連携し、がん教育出前講座をオンラインにより2回、大学単独主催により県内高等学校へ1回講師を派遣し、保健・医療教育活動に貢献した。
- ③ ◎ 「子どもの健康と環境に関する全国調査」(エコチル調査)について、広報紙「エコチル☆ふくしま通信」を年4回発行し、広く県民に周知したほか、ホームページをリニューアルし、スマートフォンやタブレット端末に対応させるなど、閲覧者の利便性を図った。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により大規模イベント等は中止したが、代わりに家族で楽しめる運動などの動画を作成しWebで配信す

るなど、広報コミュニケーション活動に取り組んだ。

- ④ ◎ 会津医療センターにおいて、産学官連携による共同研究促進のための外部資金新規受入件数は51件となり、計画目標（年間新規40件以上）を大きく上回った。
- ⑤ ◎ 中期目標で掲げた医療機関からの医師派遣依頼について、非常勤医師派遣対応率は84.0%（目標値:84.0%以上）、対応件数は1,246件（目標値:1,000件以上）となり、目標達成を維持している。
- ⑥ ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により県内病院での開催が困難な中、指導医セミナーを計画目標10回に対し5回行い、医療人育成・支援に取り組んだ。
- ⑦ ○ 看護師特定行為研修修了生に対し、修了生同士の情報交換の場を提供するフォローアップを行い、実践のための支援や継続的な自己研鑽ができる基盤を構築するなど、地域におけるチーム医療の中心となり得る看護師育成に取り組んだ。

#### (4) 国際交流に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響による出入国規制のため、協定校への学生派遣は中止となったが、オンラインを活用し、各大学との交流会や救急医学実習、研修会を通し、国際的視野を兼ね備えた医療人の育成を図った。
- ② ○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により短期海外研修は見送られたが、今後の状況により、研修医の海外研修を再開し、国際的視野を持った人材育成への積極的な取り組みを期待する。
- ③ ○ 2月に開催した国際シンポジウムではオンラインでも配信し、県民健康調査結果や海外の国際機関等の専門家からの先進的な取組の発表など、世界に向けた情報発信に取り組んだ。

#### (5) 大学附属病院に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、新臨床研修医合同オリエンテーションは中止となったが、臨床研修病院ネットワークガイドは、オンラインで開催（2回）し、臨床研修医の確保に取り組んだ。
- ② ◎ 特定の看護分野において優れた知識と技術を持つ、専門看護師及び認定看護師の資格取得4名（計画目標値:年2名以上）、特定看護師育成2名（計画目標値:年2名以上）など、専門化を考慮した水準の高い人材育成が着実に進んでおり、県民への質の高い医療提供の向上を図った。

- ③ ○ ドクターヘリ運航調整委員会や症例検討会をオンラインで開催し、消防要請時の判断基準の再確認、運用上の課題や対応についての検討を行い、ドクターヘリの効果的な運用の実施に取り組んだ。
- ④ ○ 医療安全管理監査委員会を開催（2回）し、病院の取組について特定機能病院として概ね適正に運営管理が実施され、医療安全管理体制の改善・向上に寄与しているとの評価を受けた。
- ⑤ △ 先進医療の認可申請について、支援案件を募集したが応募がなく、3年連続で中期計画の目標（目標値：年1件以上）を達成しなかった。近年、全国的に申請件数が落ち込んでいる傾向ではあるが、引き続き、先進医療の促進を図るため、積極的な取組を期待する。
- ⑥ ○ 老朽化した手術室・ICU（集中治療室）空調の改修や眼科手術室の整備、眼科手術枠を手術待機患者数の多い診療科へ割り当てるなど、施設の保全整備、将来を見据えた手術室の効果的な利活用を推進し、病院機能の充実を図った。
- ⑦ ○ 抗菌薬適正使用に向け、AST（抗菌薬適正使用支援チーム）による支援体制を強化し、血液培養提出件数（11,547件）が平均93.6%と昨年度に引き続き高水準（計画目標値：平均90%以上）を保った。また、計画的にインфекションコントロールドクター（感染症や感染制御、院内感染対策を専門に取り扱う医療従事者）や感染制御認定薬剤師（感染制御に関する専門知識と技術を有する薬剤師）などの感染管理関係の有資格者を育成し、患者・職員の安全管理及びサービスの向上に取り組んだ。県内医療機関との連携を推進し、今後の率向上に期待する。
- ⑧ ○ 事前診察予約の迅速処理や受付時間の延長、連携登録医制度導入による紹介や他医療機関への逆紹介の推進、多職種共同による転院支援等の取組を行ったが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、紹介率は89.5%（目標値：90%以上）、逆紹介率は78.2%（目標値：80%以上）となったが、概ね中期計画の目標を達成した。
- ⑨ ○ 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、病床稼働率は75.2%（目標値：中期目標期間終了時までには87%以上）となり、前年度より9.1ポイント減少した。一般病棟の平均在院日数は12.9日（目標値：中期目標期間終了時までには13日以下）で、中期計画の目標を達成した。個別目標値の明示や手術室枠の有効活用、患者サポートセンターでの退院支援など、病院長を中心に引き続き目標達成に向けた病院全体での取組が期待される。
- ⑩ ○ 医業未収金について、マニュアルに基づき新規未収金の発生防止に努めるとともに、過年度分未収金回収業務の弁護士外部委託や独自の目標値（回収率60.0%）を設定した結果、前年度より0.2ポイント増加の63.1%となり、回収率の向上が図られた。
- ⑪ ○ 医薬品の購入について、委託業者に仕入れ価格を開示してもらい、価格の透明化を図ったほか業者面談を複数回実施し、約1.1億円削減した。診療材料の購入については、診療科部長出席による価格交渉強化などにより、約4千万円の経費抑制につなげた。

- ⑫ ◎ 会津医療センターにおいて、関係医療機関等と協力・連携し、オンライン合同説明会への参加、センター独自のオンライン説明会の開催、病院見学の随時開催など研修医情報の周知に努めた結果、マッチング率は前年度に引き続き100%となり、計画目標（初期研修医マッチング率60%以上）達成を維持している。
- ⑬ ◎ 会津医療センターにおいて、高度で先進的な医療の提供を推進し、事務局と各診療科の連携により積極的な患者受け入れを行った結果、手術技術の難しさや所要時間などから区分される、手術難易度AからEのうち、手術難易度が高いD以上の割合は81.0%と前年度比5.1ポイント増加し、計画目標（70%以上）達成を維持している。
- ⑭ ○ 会津医療センターにおいて、患者支援センターを中心に、会津管内の診療所等への訪問活動や会津医療センターを紹介先としてPRした結果、紹介率は76.1%（目標値:65%以上）、前年度比1.1ポイント増加し計画目標達成を維持している。逆紹介率は、院内感染によるクラスター発生の影響もあり、前年度比4.0ポイント減少し、48.1%となったが、計画目標（目標値:45.0%以上）を達成した。
- ⑮ ○ 会津医療センターにおいて、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、病床利用率は67.8%で、計画目標（目標値:85%以上）に届かなかったが、一般病床の平均在院日数は12.3日となり、前年度に引き続き、計画目標（目標値:13日以下）達成を維持している。

2 東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するためにとるべき措置  
【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 会津大学教員から情報管理等の専門的な助言を受け、県民健康調査データ管理システムの運用を図っているほか、調査データを学術研究などに有効活用し、県民健康調査を推進した。
- ② ○ 県民健康調査推進のため、次の取組を実施した。
  - ・基本調査の回答率向上に向け、甲状腺検査会場において問診票の書き方支援を行った。
  - ・甲状腺検査受診機会の確保に向け、県内外の検査実施機関の整備を図ったほか、休日検査を10日、夜間検査を4日実施し、受診者の利便性に配慮した取組を行った。
  - ・こころの健康度・生活習慣に関する調査について、回答内容から支援が必要な方へ電話支援又は文書支援を実施するとともに、電話相談を実施するなど、こころのケアにつながる取組を推進した。



- ③ ○ 先端臨床研究センターにおいて実施しているPET検査について、各疾病の早期診断につなげるため、学内診療科への受診勧奨、学外医療機関への空き状況の情報提供を行うなど稼働向上に努めた結果、稼働件数2,701件と計画目標（目標値：PET/MRI等稼働件数年間3,000件）の90%まで達成した。また、更なる稼働向上の取組として、新たに県北地区の医療機関とPET検診事業について委託契約を締結し、稼働向上に努めた。

## (2) 復興支援に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅰ：年度計画を十分に実施できている」と認められる。

【令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ◎ 中期目標で掲げた福島医薬品開発支援拠点化事業における企業等との契約数について、既に目標を達成した。引き続き、医療関連産業の創出・振興に向けた取組が期待される。
- 成果物情報提供等契約（目標値：中期目標期間終了時まで40件）  
実績28件 累計75件
- 受託研究契約（目標値：中期目標期間終了時まで15件）  
実績42件 累計89件
- ② ○ ふたば医療センター附属病院に対する医師派遣支援を概ね計画どおり継続し、診療体制維持に取り組んだ。また、双葉8町村の帰還住民や県内避難者向けに当該地域で多くみられる生活習慣病の予防について周知するなど、双葉地域の復興を医療面から支援した。

## (3) 放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- ① ○ 先端臨床研究センターにおいて進めている放射性薬剤（MABG）の研究開発について、医薬品医療機器総合機構との協議から非臨床試験における薬剤投与・観察までの一連の行程を終了し、概ね計画どおりに進捗している。
- ② ○ 「災害・被ばく医療科学共同専攻」の共同大学院である長崎大学とオンライン会議システムにより、福島開講の「災害医学概論」や長崎開講の「被ばく影響学」等の講義を行い、災害・被ばく医療科学の専門家5名の育成を図った。

## (4) 関係機関との連携・協力に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

【令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△】

- 先端臨床研究センターにおいて、国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等と共同で研究を進めるなど、PET機器やサイクロトロン、非臨床試験施設を活用した研究契約を10件締結し、放射性薬剤開発研究を推進した。

3 管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置  
【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ 男女共同参画やワークライフバランスに関するセミナー等を開催したほか、出産、育児、介護等のライフイベントを抱えた教員に対する研究支援員の配置や産休等を取得する女性医師の代替確保など、女性が働きやすい環境を整備しワークライフバランス推進の取組を進めた。
- ② ○ 「職員研修計画」に基づき、意識改革・能力開発・資格取得支援の研修を行い、高い専門知識と技能を備えた人材の育成を推進した。
- ③ ○ 副病院長、各診療科等副部長をメンバーとした「勤務環境の改善検討ワーキンググループ」を設置し、医療従事者の「働き方改革」推進に向け、勤務環境改善についての検討を進めた。

(2) 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- 光熱水費を中心とした経費節減のため、全職員に対し経費節減意識の啓発や電力会社との協議による電気料金の縮減を図り、経費の効率的・効果的な執行に努めた。

(3) 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ◎ 学内向け広報誌「光が丘 NEWS Letter」を月1回発行したほか、新たに直近1年の成果をまとめたアニュアルレポートを年1回発行し、研究等の取り組みや成果を情報発信した。また、東日本大震災から10年の特設サイト（日本語版、英語版）を3月に公開し、効果的な情報発信を推進した。

(4) その他業務運営に関する目標を達成するための措置

【評価】「Ⅱ：年度計画をおおむね実施できている」と認められる。

[令和2年度で特に評価できる取組◎、評価できる取組○、検討課題等△]

- ① ○ コンプライアンス推進のため、各所属の取組状況の把握や新採用職員への説明、e-learning研修を実施した。
- ② ○ 新型コロナウイルス感染症拡大による遠隔授業実施に対応するため、学生寮の光回線増設工事を実施し通信環境を整備するなど、学生のより良い学習環境づくりに努めた。
- ③ ○ リモートによるメンタルヘルスオリエンテーションや教員等による定例ミーティングなどを実施し、新型コロナウイルス感染拡大防止措置により自粛生活要請及び登校制限がされている、学生のサポートを

強化した。

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法人自己評価状況										評価委員会評価	
	A	7	B	140	C	8	D	1	項目別評価	評価における特記事項		
第1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A	7	B	140	C	8	D	1	II			
1 教育に関する目標を達成するための措置	A	1	B	50	C	3	D	0	II			
(1) 入学受入方針及び入試制度に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	II	<ul style="list-style-type: none"> <li>県内医療を担う優れた入学者を確保するため、入試区分ごとの入学後成績や卒業後の進路等の分析・検証を行い、医学部においては、令和5年度推薦A枠の出願資格の変更、看護学部においては、社会人選抜廃止後の募集人員を決定し、予告公表したことは評価できる。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大のため、進学説明会、大学見学受入などが制限される中、新たにWebオープンキャンパスサイトを立ち上げ、積極的に大学情報を発信していることは評価できる。</li> </ul>		

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学達成の状況					項目別評価	評価委員会評価	評価における特記事項
	A	B	C	D	0			
(2) 教育内容及び教育の成果等に関する目標を達成するための措置			32	3	0	II		<ul style="list-style-type: none"> <li>・(医学部)国家試験を見据えた進級試験の見直しを行い、国家試験対策強化に取り組んだことは評価できる。</li> <li>・(医学部)基礎医学修得レベルの底上げと学年別の授業負担平準化のため、カリキュラムの見直しを図ったことは評価でき、今後の学生の習熟度アップが期待できる。</li> <li>・(看護学部)実践能力の高い保健師を養成するために選択制を実施する等、新カリキュラムにより看護専門職の育成に取り組んだことは評価できる。</li> <li>・(医学研究科)新たに「大学院eセミナー」を開設し、受講者の利便性向上に寄与し、専門知識を有する医療人の育成に取り組んだことは評価できる。</li> <li>・(看護学研究科)新たに「看護研究方法論」を開講し、修士課程の教育・研究機能の強化を図ったことは評価できる。</li> <li>・(助産師養成課程設置準備室)助産師の安定的な養成を進めるため、助産師養成課程(大学院看護学研究科助産師養成コース、別科助産学専攻)の開設に向け、国への申請準備を進めていることは評価できる。</li> </ul>
(3) 教育の実施体制等に関する目標を達成するための措置			5	0	0	II		<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな基準により称号付与を行った臨床教授等のより効果的な活用について検討を行い、「臨床教授等の役割」について各看護部を通じて周知し、教育体制の充実を推進したことは評価できる。</li> </ul>

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法人自己評価状況										評価委員会評価			
	A	B	C	D	0	1	2	3	4	5	項目別評価	評価における特記事項		
(4) 学生への支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	5	C	0	D	0	<p>各種奨学金の募集情報を、教務システムを利用して学生に随時周知した。</p> <p>また、令和2年度からの新たな修学支援制度についての周知を行った。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響によるアルバイトの自粛などにより経済的に厳しい学生を支援するため、大学独自の支援金の支給等を行うためのアンケートの実施を全学生に周知した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな修学支援制度対象者 55名</li> <li>・大学独自の支援金の支給 90名</li> <li>・日本学生支援機構の学生支援緊急給付金 122名</li> </ul>				II	<p>・各種奨学金の募集情報や新たな修学支援制度の周知など、制度的に積極的な活用を促した。また、経済的に厳しい学生への支援として、大学独自の支援金支給等を行うため、アンケートを実施するなど、学生支援体制強化に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・就職情報コーナーにおいて、学生に対し各医療機関からの求人、病院見学会等情報の随時提供や県内求人について、速やかな情報提供により、看護学部就職希望者就職率100%維持、県内への就職割合が6.7ポイント増となるなど、積極的な就職支援を行ったことは評価できる。</p>
(5) 保健医療人材育成のための新学部設置に関する目標を達成するための措置	A	0	B	1	C	0	D	0	<p>10月に文部科学省から保健科学部の設置が認可され、12月の学校推薦型選抜と2月の一般選抜の試験を滞りなく実施した。また、福島駅前キャンパスの1月末竣工から4月の授業開始まで約2か月という短期間の中で準備を完了させる必要があったところ、事前に関係者と調整を重ねた工程に使い、大量の教育実習機器等の搬入・設置を急ピッチで進めることで、おおむね予定どおり教育環境を整えることができた。</p>				II	<p>・保健科学部開設に向け、新型コロナウイルス感染症防止対策に努めながら入学選抜を滞りなく実施し、新キャンパスへの実習機器等の搬入・設置を短期間で行うなど、専門医療技術者の育成に向け、教育環境の整備等に取り組んだことは評価できる。</p>

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価										評価委員会評価	
		計画達成状況										項目別評価	評価における特記事項
2	研究に関する目標を達成するための措置	A	1	B	10	C	0	D	0	II			
	(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標を達成するための措置	A	1	B	7	C	0	D	0	II			<ul style="list-style-type: none"> <li>戦略的学内研究推進事業について、学内選考の上、基礎系、臨床系の講座等間の連携による研究を支援する一般分野1件を採択し研究支援を行ったことは評価できる。</li> <li>英文校正に精通した非常勤職員の雇用、民間の英文校正会社への校正委託などにより、目標値を大きく上回った英語論文数に結びついたことは評価できる。</li> </ul>
	研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	3	C	0	D	0	II			<ul style="list-style-type: none"> <li>実験動物研究施設の増築及び改修事業を研究者への影響が最小限となるよう関係者と連携しながら工事を進め、予定通りの竣工・引き渡しとなり、研究環境の向上を図ったことは評価できる。</li> <li>外部の専門家による生物統計相談や臨床研究法に基づくコンセンサス検討会などにおいて、科学性や倫理的妥当性の検討を行い、より質の高い研究となるよう支援したことは評価できる。</li> </ul>
	(2)	<p>臨床研究に関する研究者を対象とした教育を引き続き実施したほか、研究に関する相談を実施した。これにより、臨床研究法施行後初の本学単独の特定臨床研究が開始された。</p> <p>また、外部の専門家による生物統計相談の実施や臨床研究法に基づく臨床研究に関するコンセンサス検討会などを通じて、科学性や倫理的妥当性の検討を行うことで、より質の高い研究となるよう支援した。</p>										II	

2. 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法 人 自 己 評 価										評 価 委 員 会 評 価	
	計 画 達 成 の 状 況										項目別 評価	評価における特記事項
3 地域貢献に関する目標を達成するための措置	A	2	B	17	C	1	D	0			I	
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業を縮小せざるを得ずC評定となった項目もあったが、おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。</p>											
(1) 地域社会等との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	2	B	11	C	0	D	0			I	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、県民向けの公開講座が開催できなかったが、地元新聞社と連携し、紙上でのセミナー等開催や動画サイトでの講演配信など、健康啓発情報を広く発信したことは評価できる。</li> <li>・福島県健康づくり推進課と連携し、Zoomを活用したオンラインでの出前講座開催(2回)のほか、大学単独主催で、桜の聖母高等学院からの依頼により開講したことは評価できる。</li> <li>・(会津医療センター)産学官連携による共同研究促進のため、積極的に外部資金の受入を図り(計51件)、目標(年間新規40件)を上回ったことは評価できる。</li> </ul>
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年度は県民向けの公開講座を開催することができなかったが、その代替として、福島民報社と連携した「健康セミナー」の紙上開催(2/6、2/21掲載)と、福島民友新聞社と連携した「減塩サミット2021in福島(Web発信)」の紙上開催(3/21掲載)を実施した。「減塩サミット2021in福島(Web発信)」は紙面掲載のほか、動画サイトで講演を配信しており、健康啓発情報を広く新聞読者に発信した。</p> <p>福島県保健福祉部健康づくり推進課と連携し、福島県学生がん予防サポーター養成セミナー事業が教育出前講座をZoomを活用したオンラインでの開催を2回実施した(12/18福島学院大学こども学科、12/22福島学院大学福祉心理学科)。また、県主催とは別に、桜の聖母学院高等学校からの依頼でがん教育出前講座を1月14日に実施した。</p>											
(2) 地域医療等の支援に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	1	D	0			II	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機関からの医師派遣依頼について、非常勤医師派遣対応件数、対応率ともに中期目標を達成し地域医療の確保に貢献したことは評価できる。</li> <li>・県外医師招へい事業(県委託事業)で新たに1名、被災地域医療寄附講座支援事業(県補助事業)で新たに1名を採用するなど、医療従事者確保に積極的に取り組んだことは評価できる。</li> </ul>
	<p>医療機関からの医師派遣依頼について、非常勤医師派遣依頼1,492件に対して、1,246件対応し、対応率は84%であった。対応件数、対応率ともに中期目標を達成した。</p> <p>県外医師招へい事業(県委託事業)では、4月に新たに1名を採用し、被災地域医療寄附講座支援事業(県補助事業)では、11月から新たに1名を採用するなど、医療従事者確保に積極的に取り組んだ。</p>											



2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法人自己評価										項目別評価	評価委員会 評価における特記事項
	A	0	B	7	C	0	D	1				
4 国際交流に関する目標を達成するための措置	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業を中止せざるを得ずD評定となった項目もあったが、おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。</p>										II	<p>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響による出入国規制のため、協定校への学生派遣は中止となつたが、オンラインを活用し、各大学と交流会や救急医学実習、研修会を開催し、国際的視野を持った人材育成を推進したことは評価できる。 また、新たにシンガポール国立大学と協定締結し、人的交流や共同研究を推進していることは評価できる。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送りととなった短期海外研修の取組については、今後の感染症の状況によるが、積極的な取組に期待したい。 ・2月に国際シンポジウムを開催し、県民健康調査結果や関連する最新情報、国際機関等の専門家による先進的な取組についての発表、討論等を行い、海外への情報発信強化に取り組んだことは評価できる。</p>
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響による出入国規制で、協定校への学生派遣は中止となつたが、看護学部ではマウントサイナイ医科大学の看護師とオンラインによる交流会を開催し(7/4)、また共同大学院災害・被災医療科学共同専攻ではロシア北西医科大学学生を対象としたオンライン救急医学実習(10/19～10/21)を行った。 ホーチミン市医科大学との交流に関しては、1月にオンライン研修会を開催した。また、協定校への学生派遣中止の代替として、レスター大学(イギリス)の医療英語オンラインコースの受講及びレスター大学医学部生とのオンライン交流会(2/27～3/19)を開催した。 1月には、シンガポール国立大学と新たに協定を締結した。</p>										II	

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法 人 自 己 評 価						項目別 評価	評価委員会 評価における特記事項
	計	画	達	成	の	状		
5 大学附属病院に関する目標を達成するための措置	A	3	B	56	C	4	D	0
	<p>新型コロナウイルス感染症拡大の影響により事業を縮小あるいは中止せざるを得ずC評定となった項目もあつたが、おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。</p>							
(1) 附属病院に関する目標を達成するための措置	A	0	B	42	C	4	D	0
	<p>8月4日に令和2年度第1回医療安全管理監査委員会を開催した。令和元年度の現状を項目ごとに報告し、おおむね適切に実施されていると評価された。また、2月2日に第2回委員会を開催した。令和元年度から取り組んでいた、医療安全改革アクションプランの概要、進捗状況、今後の取り組みなどを報告し、医療安全管理体制の改善・向上に寄与していると評価された。</p> <p>平成29年度に受審した病院機能評価で、評価「B」とされた事項等について引き続き改善に取り組んでいる。IC (informed consent: 説明と同意) 時における、患者の理解を助けるための看護師の同席については、令和2年度、IC実施状況デモンストラートを完成させ、令和3年度より電子カルテに登録予定である。また、令和2年度は手術の説明文書及び手術承諾書をより分かりやすく改正し、運用を開始した。</p> <p>12月に開催した病院長ヒアリングでは、診療科別機能性指標(患者数、稼働額、在院日数、各種DPCデータ等)の分析結果を情報発信するとともに、分析結果を踏まえた診療科の取組状況や今後の改善項目の確認等、意見交換を行った。</p> <p>また、DPC (Diagnosis Procedure Combination (診断群分類))に基づいて評価される入院1日あたりの定額支払い制度)の大学病院間医療機関別係数比較結果では、戦略的に対策を講じた結果、10月時点で本学附属病院が全国6位にランキングしたことを紹介した。</p>							
	<p>II</p> <p>・医療安全管理監査委員会を2回開催し、病院の取組について医療安全管理体制の改善・向上に寄与していると評価されたこと、全職員対象の合同研修会で情報を共有し、管理体制の強化につなげたことは評価できる。</p> <p>・手術の説明文書及び手術承諾書をより分かりやすく改正し、運用を開始するなど、継続した改善への取り組みは評価できる。</p> <p>・病院長ヒアリングにおいて、診療科別機能性指標の分析結果を情報発信するとともに、結果を踏まえた診療科の取組状況や今後の改善項目の確認等、意見交換を行い、経営改善に向けた取り組みを行っていることは評価できる。</p>							
	<p>II</p>							

2 項目別評価 総括表

項目別評価	評価委員会評価		公立大学法人自己評価							項目別評価	
	項目別評価	評価委員会評価	計画	A	B	I4	C	0	D		0
(2)	会津医療センターに関する目標を達成するための措置	I	県内・県外で予定されていた説明会は中止となったが、県内のオンライン合同説明会に参加し、また希望に応じて当院個別でのオンライン説明会も開催した。加えて病院員学の受入れを行い、民間のWEBサイトにおいても臨床研修医及び内科専攻医情報を周知した。その後二次募集で残り1名が内定し、マッチングでは3名が内定した。その後2年度採用初期研修医は定員5名のところ、自治医大生が1名内定し、マッチングでは3名が内定した。その後二次募集で残り1名が内定し、紹介率は70%台で推移し、年度実績は76.1%と目標(65%)を上回った。逆紹介率は月によってばらつきが見られるが年度実績は48.1%と目標(45.0%)を上回った。	A	3	B	0	C	0	D	0
第2	東日本大震災等の復興支援に関する目標を達成するための措置	II	おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。	A	1	B	24	C	0	D	0
1	県民の健康の保持・増進に関する目標を達成するための措置	II	<p>PEIT機器活用に関しては、がんの進行程度の診断や再発診断を中心に高精度の画像診断を行うとともに、新たな診断法の確立等を目的とした臨床研究も実施している。新型コロナウイルス感染症の影響等を受けつづも、以下の取組により3月末時点で目標稼働件数の約90%(4月～3月実績2,701件)まで達成することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学内診療科へPET適用症例の受診勧奨</li> <li>・学外医療機関へ空き状況の情報提供</li> <li>・県北地区の医療機関とPET検査事業について委託契約を締結</li> </ul>	A	0	B	9	C	0	D	0

2 項目別評価 総括表

項目別評価	評価委員会 評価		公立大学法人自己評価							
	項目別評価	評価における特記事項	計画	達成	状況	状況	状況			
2	I	<p>福島医薬品開発支援拠点化事業における成果物提供契約は、平成30年度から累計75件となり、着実に研究が進展していることは評価できる。</p> <p>・TRセンターから独立したベンチャー企業に対し、医大発ベンチャーの称号を授与し、継続した支援を行うなど、医療関連産業の創出・振興に寄与したことは評価できる。</p>	A	I	B	3	C	0	D	0
<p>復興支援に関する目標を達成するための措置</p>	<p>福島医薬品開発支援拠点化事業において、研究開発業務を委託している一般社団法人バイオ産業情報化コンソーシアム(BIC)への参画企業は、3月末時点で、33企業・団体に上った。</p> <p>このネットワークを活用し、企業等との間に成果物提供契約を28件・平成30年度から累計75件(目標は平成30年度～令和5年度累計で40件)、受託研究契約を42件・平成30年度から累計89件(目標は平成30年度～令和5年度累計で15件)を結ぶなど、着実に研究が進展した。</p> <p>○成果物提供契約 令和2年度実績:28件(有償28件、無償0件) 令和元年度実績:33件(有償31件、無償2件) 平成30年度実績:14件(有償14件、無償0件)</p> <p>○受託研究契約 令和2年度実績:42件 令和元年度実績:26件 平成30年度実績:21件</p> <p>TRセンターから独立したベンチャー企業3社への支援として、医大発ベンチャー称号を授与し、研究室・機器貸付けと貸付料の減免(1/2)を継続して行っており、業務提携基本契約を締結している福島TR財団への貸付料と合わせ4者と、令和2年度合計44,164千円の貸付契約実績を上げた。また、ベンチャー企業及び福島TR財団を合わせた雇用者総数は34名に上った。(いずれも3月末時点)</p>									

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法 人 自 己 評 価						項目別 評価	評価委員会 評価における特記事項	
	A	B	C	D	E	F			
3 放射線医学の教育研究等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	<p>先臨床研究センターでは、がんの進行程度の診断や再発診断を行う高精度の画像診断、いわゆるPET検査を実施している。PET検査の利用促進による各疾病の早期診断につなげるため、学内診療科へのPET適用症例の受診勧奨、学外医療機関への空き状況の情報提供等、PET検査のニーズを受診につなげる取組を行うとともに、県北地区の医療機関とPET検査事業について委託契約を締結し、稼働向上に努めた。</p> <p>放射性薬剤の研究開発については、複数のプロジェクトを進めており、中でもMABGについては9月に医薬品医療機器総合機構との協議(令和元年12月協議開始)が整い、11月から非臨床本試験を実施。3月までに薬剤投与・観察までの一連の試験を終了し、おおむね計画どおりの進捗している。</p> <p>※MABG:ベンジルグルジアニジンという化合物(褐色細胞腫に取り込まれやすい化合物)に放射性核種であるアスタチンを組み込んだ放射性薬剤であり、適応症は褐色細胞腫(主に副腎に発生するがん)</p> <p>長崎大学とオンライン会議システムを利用して福島開講の「災害医学概論」や長崎開講の「被ばく影響学」等の講義を行い、災害・被ばく医療科学の専門家を育成した。</p>
4 関係機関との連携・協力に関する目標を達成するための措置	A	0	B	6	C	0	D	0	<p>IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等国内外の研究機関と連携関係を継続しているほか、放射性薬剤研究等における新たな協力関係の構築に努めた。</p> <p>民間企業や研究機関等とPET機器やサイクロトロン、非臨床試験施設を活用した共同研究契約・受託研究契約を10件締結し、放射性薬剤開発に関する研究を進めた。</p>
							II	<p>・PET検査による各疾病の早期診断につなげるため、学内診療科への受診勧奨、学外医療機関への情報提供等を行うとともに、新たに県北地区の医療機関とPET検査事業について委託契約を締結し、稼働向上に努めたことについては評価できる。</p> <p>・放射性薬剤の研究開発について、複数のプロジェクトを進め、MABGについて、医薬品医療機器総合機構との協議から非臨床試験における薬剤投与・観察までの一連の行程を終了し、おおむね計画どおりの進捗していることは評価できる。</p> <p>・共同大学院の長崎大学とオンライン会議システムを利用して講義を行い、災害・被ばく医療科学の専門家5名を育成したことは評価できる。</p>	
							II	<p>・IAEAや国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構等、国内外の研究機関と連携関係を継続しているほか、放射性薬剤研究等における新たな協力関係の構築に取り組んだことは評価できる。</p> <p>・民間企業や研究機関等とPET機器やサイクロトロン、非臨床試験施設を活用した共同研究契約・受託研究契約を締結し、放射性薬剤開発に関する研究を進めたことは評価できる。</p>	

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学法人自己評価										評価委員会評価	
	計画達成状況										項目別評価	評価における特記事項
第3	管理運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	40	C	0	D	0	II		
1	業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	12	C	0	D	0	II		
(1)	組織運営の改善に関する目標を達成するための措置	A	0	B	11	C	0	D	0	II	<p>男女共同参画やワークライフバランスに関するセミナー等を開催したほか、ライフイベント中の研究者への研究支援員の配置などを行い、女性が働きやすい環境整備を推進したことは評価できる。</p> <p>副病院長を座長とし、各診療科等副部長をメンバーとした「勤務環境の改善検討ワーキンググループ」を4回開催し、医師の働き方改革を踏まえた勤務環境改善について検討を進めたことは評価できる。</p>	
(2)	事務等の効率化・合理化に関する目標を達成するための措置	A	0	B	1	C	0	D	0	II	<p>入札、見積合わせの方式を立会方式から郵送へ変更したことによる事務の迅速化、効率化を図ったこと、研修会等のe-learning形式への見直しによる事務負担の軽減促進や受講者の受講時間等の自由度を高めるなどの合理化に取り組んだことは評価できる。</p>	

2 項目別評価 総括表

評価項目		公立大学法人自己評価状況										評価委員会評価	
		A	0	B	3	C	0	D	0	項目別評価	評価における特記事項		
2	財務内容の改善に関する目標を達成するための措置	おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。										II	
		(1)	A	0	B	2	C	0	D	0	II	・競争的資金の公募情報を速やかに学内に周知し、科研究費等の競争的資金の申請書について、希望者分を事務局において事前チェックを実施するなど申請に関する支援を行い、採択金額の増加に努めたことは評価できる。	
	外部研究資金等の自己収入の増加に関する目標を達成するための措置	競争的資金の公募情報については速やかに学内の電子掲示板に掲載し周知した。また、科研究費等の競争的資金の申請書については、希望者分を事務局において事前チェックを実施した。										II	
		(2)	A	0	B	1	C	0	D	0	II	・新たに「光熱水費の使用状況データの電子掲示板への掲示」等による全職員に対する経費削減意識の啓発や電力会社との協議による電気料金の削減を図り、経費の効率的・効果的な執行に努めたことは評価できる。	
3	自己点検・評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置	おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。										II	
		(1)	A	0	B	5	C	0	D	0	II	・県公立大学法人評価委員会の令和元年度業務実績報告書に係る評価結果について、役員事項と令和2年度計画の着実な進捗を促し、目標達成に向けた取組を行ったことは評価できる。	

2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学、学法、学人自己評価										評価委員会評価	
	計画達成状況										項目別評価	評価における特記事項
(2) 情報発信の推進に関する目標を達成するための措置	A	0	B	4	C	0	D	0			II	積極的な取材対応や情報提供、優れた研究成果の発表など、地域や社会に対する情報発信の推進に取り組んだことは評価できる。
	令和元年度年間取材対応件数149件に対し、令和2年度は378件の取材に対応した。また、報道機関への情報提供を49件行った。大学ホームページの「主要研究成果」や「学会等表彰」のページに主要研究成果44件を掲載するとともに、優れた研究成果についてはマスコミ等への発表を行うなど、研究成果の積極的な情報発信に取り組んだ。ホームページに産学連携の主な活動を掲載しているほか、バイオジャパン2020、メディアカルグリーンイノベーション2020、JST新技術説明会に参加し、企業向けプレゼンテーションを行い、積極的な情報発信に努めた。											
4 その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	A	0	B	16	C	0	D	0	おおむね計画どおり実施し、ほぼ期待どおりの成果を挙げた。		II	
(1) 法令遵守に関する目標を達成するための措置	A	0	B	3	C	0	D	0	各所属の取組状況を把握するため、コンプライアンス推進に関する取組に係る文書照会(5/20付け)を行ったほか、各所属へコンプライアンスマニュアルの送付や新採用職員フォローアップ研修を実施し、10月に行った。さらに、2月にe-learning研修を実施し、コンプライアンスを推進した。		II	コンプライアンス推進のため、各所属へのマニュアルの送付、新採用職員フォローアップ研修やe-learning研修を行い、コンプライアンスの徹底に努めたことは、評価できる。
	新型コロナウイルス感染症拡大の影響による遠隔授業の実施に当たり、学生寮の光回線増設工事を行い、学生のよりよい学習環境づくりへの取組は評価できる。 保健科学部の情報ネットワークについて、予定どおり情報基盤整備し、環境整備支援を行ったことは評価できる。											
(2) 施設整備や情報通信基盤の整備・活用等に関する目標を達成するための措置	A	0	B	7	C	0	D	0	第1から第4、第7、第8及び第2臨床講義室のプロジェクトの更新を行い、学習環境を整備した。 新型コロナウイルス感染症拡大を受け、遠隔授業に対応するに当たり、通信環境を整備することを目的に学生寮の光回線の増設工事を行った。		II	



2 項目別評価 総括表

評価項目	公立大学達成の状況					項目別評価	評価委員会 評価	評価における特記事項
	A	B	C	D	0			
(3) 健康管理・安全管理に関する目標を達成するための措置					0	II		<p>定期健康診断の未受診者に対し、予備日や委託先の健診実施機関での受診、受診時間通知の徹底を図るなど、積極的な受診勧奨に取り組み、3年連続受診率100%を達成したことは評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全職員を対象にした、オンラインによるメンタルヘルス研修会の開催や、大学健康管理センターだよりの発行など、職員の健康管理意識への啓発のため、積極的に情報発信に取り組んだことは評価できる。</li> <li>学生のメンタルヘルスに関し、リモートによるオリエンテーションや週1回の相談室を開設し、また、新型コロナウイルス感染症拡大防止措置による自粛生活、登校制限下におけるうつや不安感の調査を実施するなど、学生の健康管理へのサポートを強化したことは評価できる。</li> <li>原子力災害拠点病院を対象とした原子力災害医療中核人材研修、原子力災害医療派遣チーム研修を実施し、関係機関との連携強化に努めたことは評価できる。</li> </ul>